

「環境にっこう」のページでは、市の環境に関する情報を発信しています。
 くわしくは **市のごみ処理経費について…資源循環推進課 資源循環推進係** ☎0288-21-5138 / **盛土の規制について…生活安全課 生活環境係** ☎0288-21-5112 / **環境美化標語について…環境森林課 自然環境係** ☎0288-21-5152

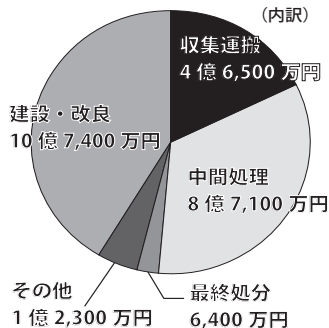
日光市のごみ処理等経費をお知らせします

ごみ処理経費は、施設に係る「建設・改良費」と日々のごみ処理に係る「運営費(処理等および維持管理費)」に分けられます。運営費の中身は、主に、処理工程別に収集運搬・中間処理・最終処分などの必要経費からなります。

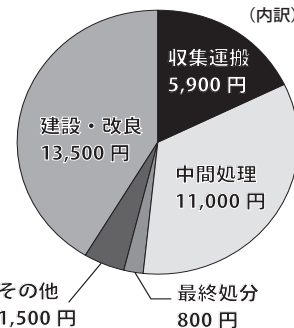
日常のごみ処理に係る運営費約15億円に対し、歳入となるごみ処理手数料や資源物売払料などは3億6,500万円で、4倍以上の経費が必要になります。

ごみ処理には多額の経費がかかります。ごみの減量化・資源化に協力をお願いします。

日光市全体のごみ処理等経費
25億9,700万円



市民ひとりあたりのごみ処理等経費
3万2,700円



※上の2つの円グラフはいずれも令和3年度確定値(環境省実態調査)

収集運搬

家庭から出る、燃えるごみ・燃えないごみ・資源物をごみステーションから収集し、ごみ処理施設(クリーンセンターやリサイクルセンター)へ運びます。



中間処理

燃えるごみはクリーンセンターで焼却処理され、燃えないごみなど(直接搬入の粗大ごみ含む)はリサイクルセンターで破碎処理等の上、分別されます。



最終処分

クリーンセンターにおける焼却処理後の残渣(ざんざ)やリサイクルセンターにおける破碎処理後の残渣を埋め立てます(現在は外部委託)。



令和5年度 日光市自然環境保全及び環境美化に関する標語応募作品受賞者

- | | | | | | |
|--|--|--|--|---|---|
| <p>最優秀賞
 未来へと 守り続ける日光の 緑豊かな大自然
 今市中学校3年 津布久日奈子</p> | <p>優秀賞
 繋げよう 受け継がれてきた 自然と歴史 大切にしよう
 今市中学校3年 吉原棟建</p> | <p>資源と景色
 守ろうよ みんなの宝 日光の自然
 今市中学校3年 深谷征慈</p> | <p>未来のために届け！ 育て！ 緑と自然我が町日光
 湯西川中学校3年 久岡咲空</p> | <p>男体山 中禅寺湖に 大谷川 守り受け継ぐ 私のふるさと
 今市中学校3年 小林琴子</p> | <p>守ろうよ 緑輝く大自然 笑顔あふれる 未来のために
 今市中学校1年 赤石莉希</p> |
|--|--|--|--|---|---|

悪質な盛土や不法投棄に注意 !!



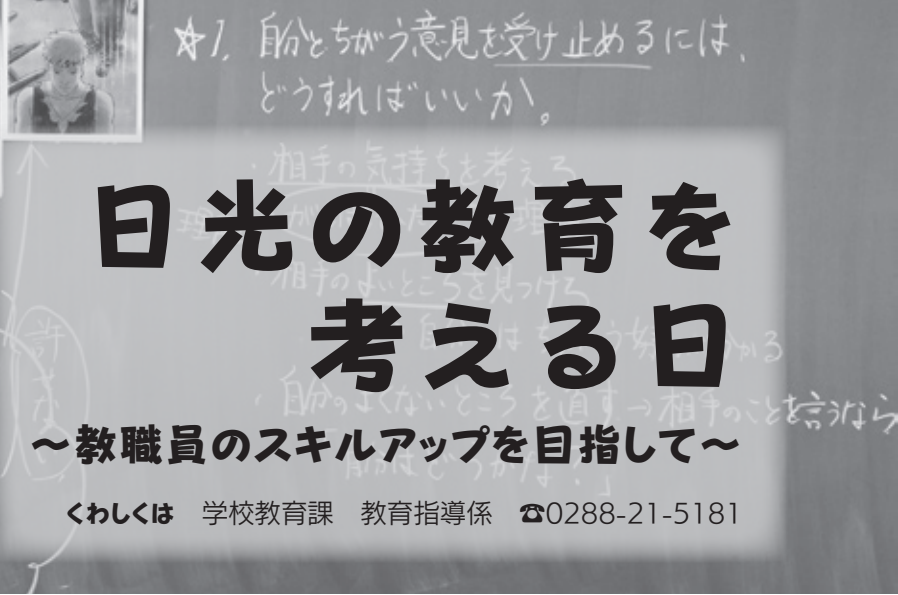
「いい土で土地を埋めてあげます」「資材置き場に土地を貸してほしい」「〇〇をしたいので、土地を売ってほしい」などの話を持ち掛けられ、安易に同意してしまった結果、「粗悪な残土で埋め立てられる」や「悪質な盛土をされたまま放置される」「産業廃棄物を埋められる」などの事案が発生しています。

悪質な盛土や廃棄物の埋め立て行為の多くは、適正な処理の資金がない場合や、処理費用を免れるために行われるため、行為者が判明しても撤去されずに放置されることがあります。このような場合、最終的に土地所有者が撤去費用を負担しなければならない不利益が生じる場合もあります。次のような防止策で、あなたの大切な財産を守りましょう。

防止策



- うまい話があっても乗らない、安易に土地を貸さない、売らない。
- 契約内容を十分に確認してから借借契約を交わす。
- 自分だけで判断せず、家族や知人に相談する。
- 不審な場合は、市役所(生活安全課)に相談する。



日光の教育を 考える日

～教職員のスキルアップを目指して～

くわしくは 学校教育課 教育指導係 ☎0288-21-5181

会場校	研究テーマ	全体会の講師
大沢小学校	学びをつなげ、英語で自分の考えや気持ちを主体的に伝え合うことのできる子どもの育成～必然性のある言語活動を通して～	白百合女子大学 教授 山野 有紀 氏
日光小学校	身近な歴史や伝統文化、自然（ひと・もの・こと）に理解を深め、「ふるさと日光」が自慢できる（日光が好き）児童の育成～探究的な見方・考え方を働かせて行う教科横断的な学習・総合的な学習の時間の充実に向けて～	栃木市教育研究所 所長 松本 敏 氏
下原小学校	学業指導の充実～コミュニケーション能力を基盤に帰属意識を高める指導の実践～	日本大学文理学部 教授 藤平 敦 氏
大沢中学校	協働的な学びを通したわかる授業の展開～個別最適化を図りながらともに学びあう生徒の育成～	宇都宮大学大学院 教授 人見 久城 氏
藤原中学校	学業指導（集団づくり・授業づくり）の推進～校内のCAPD マネジメントサイクルの構築～	県総合教育センター 小川 智 氏

11月15日（水）に市内小中学校の教職員が一斉に研修を行う「日光の教育を考える日」を開催しました。
3年目となる今回は、市内の5つの会場に分かれて、左表の内容をテーマとして研修会を実施しました。公開授業、研究発表会、大学教授などを招いた講演会に、多くの教員が参加し、今、求められている授業づくりを学び合いました。

下原小学校の研修

「学業指導の充実」をテーマに研修会を実施しました。

1. 研究授業

4年生の算数「四角形の特ちょうを調べよう」、5年生の学級活動「臨海自然教室の目標を決めよう」、6年生の道徳「フロンコ乗りとピエロ」分かり合う喜び（相互理解、寛容）の授業を公開。各教職員が授業と子どもたちの様子から学びを得ました。

2. 研究発表

下原小学校の教職員が、帰属意識の高い学級づくりと、コミュニケーション能力を育む授業づくりを目指す取り組みの実践例を発表しました。

3. 指導講評・講演

藤平氏（日本大学教授）が、児童生徒が学びに向かう力である「非認知能力」を高めるために、教職員が学業指導の内容を再認識し、子どもたちが安心する場所をつくることの大切さを話しました。



下原小学校の研修会に参加した教職員の声

今回の下原小学校の研究テーマでは、「勉強を学ぶだけでなく、生徒が主体性を持ち、人間関係や社会性を学ぶための場」としての授業づくりを行っていました。

下原小学校には、よく練られた授業を提供していただき、それを見ることのできる有意義な機会となりました。学校での集団づくりをしながら、個人を育てる視点は大いに参考になりました。

参加した多くの先生が、自分の学校に戻ってから、実践の場に生かすことができると思います。